

4. 「診療ガイドライン」の内容認知.....	p.22
(1) 性別.....	p.23
(2) 年代別.....	p.24
(3) 職業別.....	p.25
(4) 都市規模別.....	p.26
(5) 現在の通院の有無別.....	p.27
5. 罹患状況.....	p.28
(1) 最近1年間の受診経験（年代別）.....	p.28
(2) 現在の通院有無（年代別）.....	p.28
6. 調査結果の考察.....	p.29
(1) EBMの認知について.....	p.29
(2) 診療ガイドラインの認知について.....	p.29
IV.集計結果のチャート.....	p.30
1. 用語認知（サマリー表）.....	p.30
2. 用語認知（EBM）.....	p.31
(1) 性別.....	p.31
(2) 年代別.....	p.31
(3) 職業別.....	p.32
(4) 業種別.....	p.33
(5) 都市規模別.....	p.34
(6) 最近1年間の病気による受診経験別.....	p.35
(7) 現在の通院有無別.....	p.35
(8) 現在通院の病気別（通院者ベース）.....	p.36
3. 用語認知（診療ガイドライン）.....	p.37
(1) 性別.....	p.37
(2) 年代別.....	p.37
(3) 職業別.....	p.38
(4) 業種別.....	p.39
(5) 都市規模別.....	p.40
(6) 最近1年間の病気による受診経験別.....	p.41
(7) 現在の通院有無別.....	p.41
(8) 現在通院の病気別（通院者ベース）.....	p.42

I 調査概要

1. 調査目的

一般市民（非医療従事者）がどの程度「EBM」、「診療ガイドライン」を知っているのか（知らないのか）、を把握する。

比較のため、上記2語を含み医療に関わる12の言葉について用語の認知を調べた。

2. 調査設計

- (1) 調査地域 全国
- (2) 調査方法 インターネット調査
- (3) 調査対象 成人（20歳以上）、男女個人（医療従事者(*)を除く）
(*)開業医・勤務医/看護師/薬剤師/その他医療関係者
- (4) 調査標本数 6,047人（有効回収数）

	Total	20代	30代	40代	50代	60歳以上
Total	6,047	751	963	903	1,648	1,776
男性	2,793	377	498	432	544	942
女性	3,254	374	465	477	1,104	834

- (5) 調査期間 2006年2月22日（水）～2月27日（月）
- (6) 調査実施機関 （企画設計）株式会社プラメド
（実査運営）株式会社インテージインタラクティブ

3. 回答者属性

(1) 性別・年齢

今回の調査対象者の性別・年齢の分布を、総務庁統計局の推計値（平成 18 年 2 月 1 日概算値）とを比較したのが、下表である。

男女比をみると、本調査回答者は、統計局推計値と比べやや女性が多いものの、大きな偏りはない。

年齢別の分布では、「55～59 歳」、「60～64 歳」の年齢層の構成比が、推計値と比べやや多い。これは女性において、この年齢層が多く、逆に 70 歳以上で少ないため、である。

	本調査回答者			総務庁統計局推計値 (平成 18 年 2 月 1 日概算値)		
	TOTAL	男 性	女 性	TOTAL	男 性	女 性
実数(*)	6,047	2,793	3,254	12,774	6,231	6,544
男女比(%)	100.0	46.2	53.8	100.0	48.8	51.2
年齢構成比(%)						
TOTAL	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
20～24 歳	5.8	6.0	5.6	7.3	7.7	6.8
25～29 歳	6.6	7.5	5.9	8.1	8.6	7.6
30～34 歳	8.4	9.3	7.6	9.4	9.9	9.0
35～39 歳	7.6	8.5	6.7	8.5	8.9	8.2
40～44 歳	7.5	8.0	7.0	7.8	8.2	7.5
45～49 歳	7.5	7.4	7.6	7.4	7.7	7.2
50～54 歳	10.4	8.3	12.3	8.3	8.6	8.0
55～59 歳	16.8	11.2	21.6	10.1	10.4	9.9
60～64 歳	12.5	10.7	14.0	8.0	8.0	7.9
65～69 歳	8.9	9.6	8.3	7.2	7.1	7.3
70 歳以上	8.0	13.5	3.3	17.8	14.9	20.5

(*)単位 本調査：人、統計局推定値：万人

(2) 居住地（都道府県）

全 国	6047	(単位：人)			
北海道	279	石川県	57	岡山県	96
青森県	69	福井県	38	広島県	146
岩手県	80	山梨県	37	山口県	79
宮城県	115	長野県	112	徳島県	46
秋田県	61	岐阜県	100	香川県	53
山形県	63	静岡県	175	愛媛県	64
福島県	102	愛知県	340	高知県	43
茨城県	147	三重県	84	福岡県	220
栃木県	88	滋賀県	54	佐賀県	39
群馬県	100	京都府	125	長崎県	69
埼玉県	325	大阪府	381	熊本県	94
千葉県	278	兵庫県	236	大分県	64
東京都	575	奈良県	69	宮崎県	42
神奈川県	431	和歌山県	59	鹿児島県	84
新潟県	140	鳥取県	26	沖縄県	57
富山県	61	島根県	44		

(3) 居住地の都市規模

(単位：人)	実 数
TOTAL	6,047
大都市（東京 23 区、政令指定都市、100 万人以上）	1,642
中都市（人口 100 万人未満の県庁所在都市）	1,170
その他の市	2,657
町・村	578

(4) 職業（×性別）

（単位：人）	TOTAL	男性	女性
TOTAL	6,047	2,793	3,254
会社員（管理職以外の正社員）	1,080	748	332
会社員（管理職）	253	239	14
会社役員・経営者	174	123	51
派遣・契約社員	208	79	129
公務員・非営利団体職員	207	158	49
教職員講師	105	53	52
弁護士、弁理士、行政書士	12	10	2
会計士、税理士	8	6	2
農林漁業	35	25	10
自営業（農林漁業を除く）	498	312	186
SOHO	54	34	20
パート・アルバイト・フリーター	618	102	516
内職	15	2	13
専業主婦・主夫	1,533	1	1,532
学生（大学、大学院、専門学校、短大、予備校）	212	126	86
無職、定年退職	853	686	167
その他の職業	182	89	93

Ⅱ 調査結果の要約

1. 用語の認知

調査した医療関連用語 12 語の認知状況は、下表のとおりであった。下表は、認知率（内容認知者の割合）の高い順に並べた。（P.30 にチャートを掲載）

- (1) 「EBM（イー・ビー・エム）」の認知率は、12 語中もっとも低く、『内容認知者』（「言葉も内容も知っている」）は全体の **1.7%**、『用語認知者』（「言葉は聞いた・見たことがあるが内容はよく分からない」）は **14.3%**にとどまった
- (2) 「診療ガイドライン」の『内容認知者』の割合は、12 語中「EBM」に次いで 2 番目に低かった（**8.0%**）。ただし、『用語認知者』が全体の半数（**50.5%**）おり、「特定機能病院」や「QOL」と比べ、内容はよく分からないものの言葉を聞いた・見た人が多いことが伺える
- (3) 認知率の高い上位 3 語は、いずれも疾患名・疾患に関わる言葉であった。調査用語の選定にもよるが、一般市民にとっては、医療関連用語の中では、疾患名に対する認知（関与）が高いように思われる

(N=6047) 単位：%	(内容認知者) 言葉も内容も 知っている	(用語認知者) 言葉は聞いた・見たことがあるが内容はよく分からない	(非認知者) 言葉も内容も 知らない
骨粗しょう症	87.7	11.7	0.6
生活習慣病	79.1	20.0	0.9
認知症	74.5	21.3	4.3
ジェネリック医薬品	48.0	28.7	23.3
インフォームド・コンセント	47.9	26.4	25.8
セカンド・オピニオン	42.1	31.1	26.8
特定保健用食品（トクホ）	39.1	42.7	18.3
治験	37.6	35.2	27.2
QOL（Quality of Life）	13.9	20.6	65.5
特定機能病院	8.5	41.8	49.7
診療ガイドライン	8.0	50.5	41.5
EBM（イー・ビー・エム）	1.7	14.3	84.0

2. 「EBM」、「診療ガイドライン」の内容認知

「EBM」、「診療ガイドライン」の内容を提示し、認知の程度を調査した結果は、下表のとおり。

- (1) 「EBM（イー・ビー・エム）」の内容認知は非常に低く、「知っていた」人の割合はいずれの説明内容に対しても全体の1%程度にとどまり、非認知者の割合が9割を超えている。ほとんど知られていない、といえる。

(N=6047) 単位：%	知っていた	なんとなく知っていた	知らなかった
「EBM（イー・ビー・エム）」とは、英語の Evidence-Based Medicine の頭文字を取った言葉です。	1.4	5.4	93.2
「EBM（イー・ビー・エム）」とは、「科学的根拠に基づく医療」という意味であり、治るという証拠がある薬を処方する（医療を行う）ということです。	1.4	7.0	91.6
「EBM（イー・ビー・エム）」とは、科学的根拠のない経験や慣習や権威者の意見に基づく治療法や予防法を排除し、世界の研究者が行っている科学的研究結果（臨床研究などの科学的データ）にもとづいた確かな科学的根拠（証拠）がある治療法、治療薬、予防法を患者に対して処方していくということです。	1.0	5.4	93.6

- (2) 「診療ガイドライン」の内容認知は、いずれの説明内容も「知っていた」人の割合が1割に至らなかった。特に3番目の説明内容については、非認知者が8割を上回る結果であった。

	(N=6047) 単位：%	知って いた	なんと なく知っ ていた	知らな かった
「診療ガイドライン」とは、予防から診断、治療、リハビリテーションまで、特定の臨床状況のもとで、医師と患者さんが適切な判断や決断を下せるよう支援する目的で体系的に作成された文書、のことです。		6.2	30.3	63.4
「診療ガイドライン」とは、患者さんが、病気になった時どんな治療を受けたら良いかをはじめとして、判断に困る場合の手助けになるように、医学的な情報や専門医の助言をまとめた文書、のことです。		5.6	28.2	66.2
「診療ガイドライン」には、予防や診断、治療に関する問題に対し、回答とその信頼度を明示し、根拠となる国際的な臨床試験や疫学研究の論文が示されています。		2.9	16.4	80.7

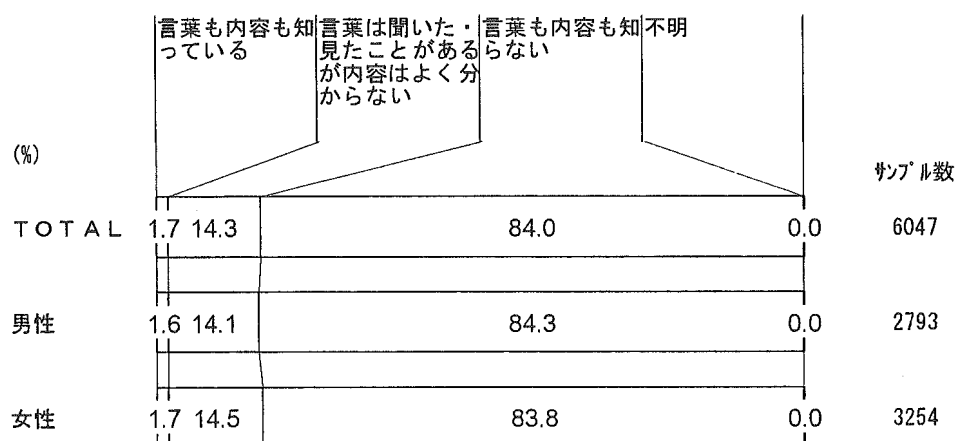
Ⅲ 調査結果の詳細

1. 「EBM」の用語認知

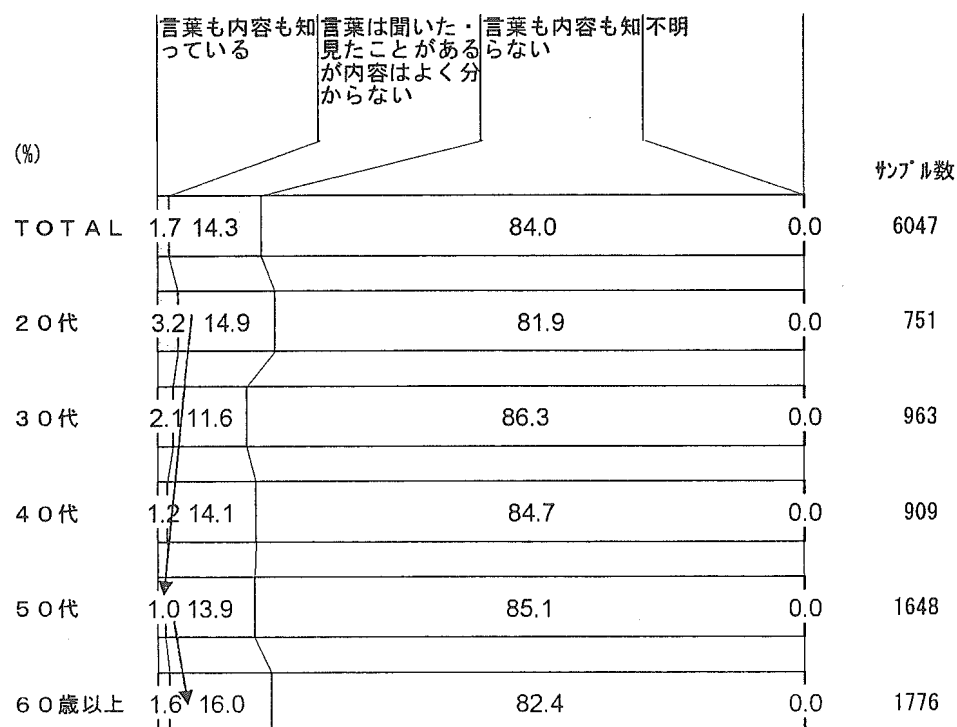
(1) 性別・年代別

男女間での認知度に差はない。年代別では、20代が全年代で「言葉も内容も知っている人」（以下、『用語＋内容認知者』）の割合が最も高く、年齢が上がるにしたがって『用語＋内容認知者』の割合は低下し、60代以上の高齢層で、再度上昇する。

表頭：用語認知 「EBM（イー・ビー・エム）」
表側：性別



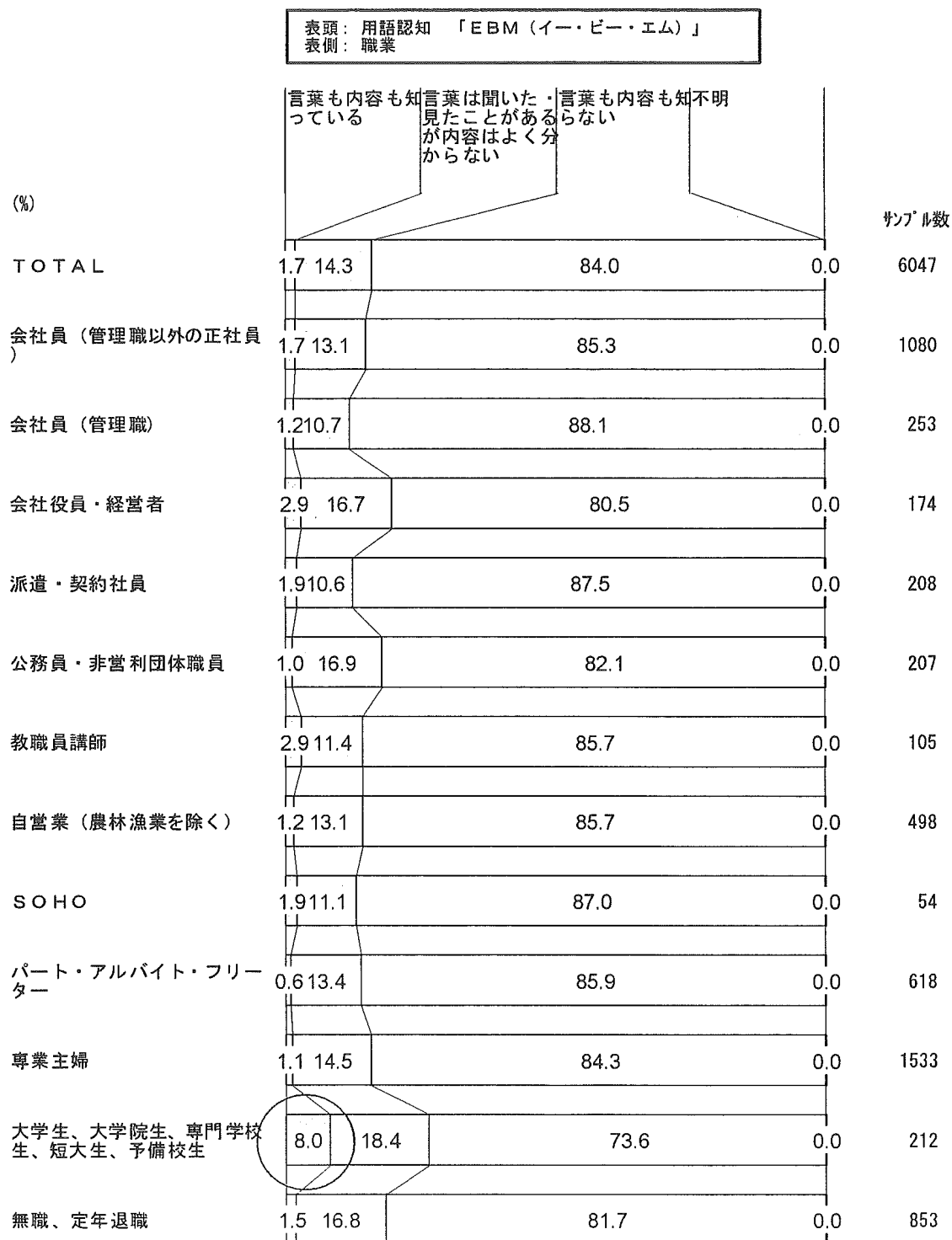
表頭：用語認知 「EBM（イー・ビー・エム）」
表側：年代



(2) 職業別

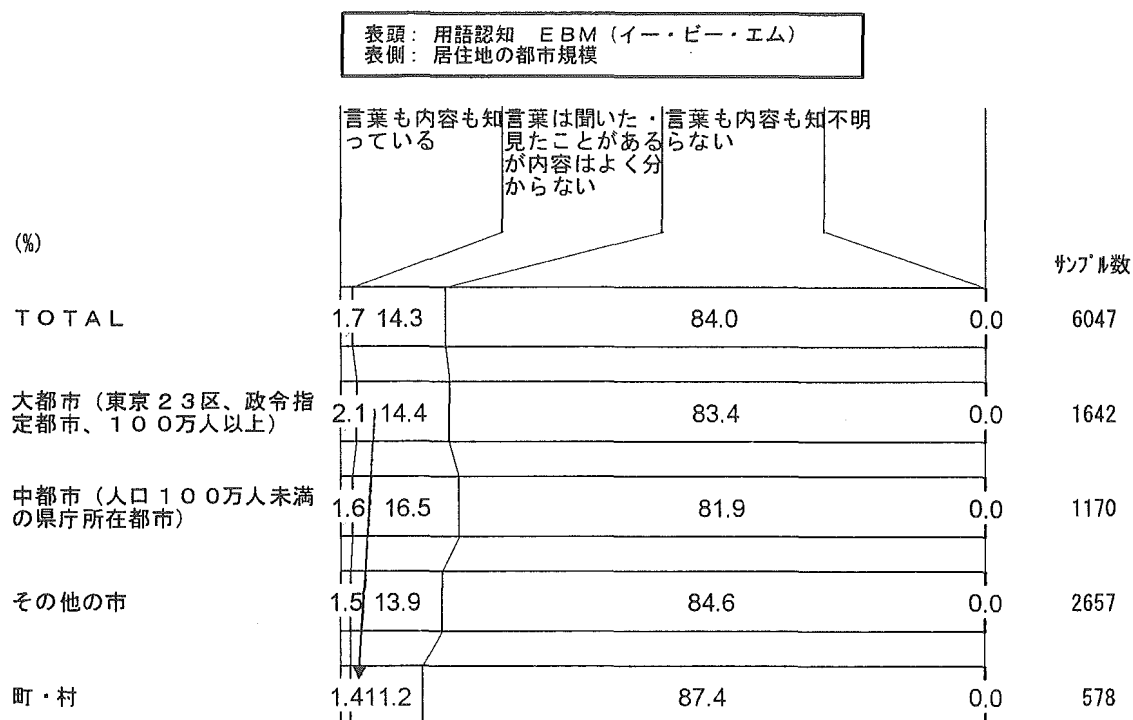
職業別では、学生が『用語＋内容認知者』(8%)、と「言葉は聞いた・見たことはあるが内容はよく分からない」(以下『用語のみ認知者』)(18.4%)は、全ての職業でもっとも高い。

社会人では「会社役員・経営者」、「教職員講師」が、他の職業に比べやや高い程度であった。(下図のうち、サンプル数が50に満たない職業は省略した)



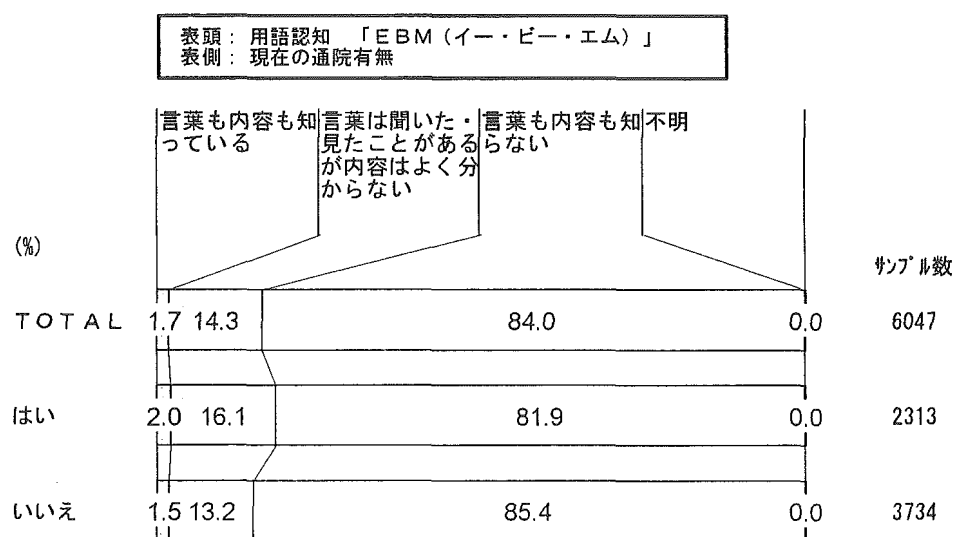
(3) 都市規模別

回答者の居住する都市規模別では、『用語＋内容認知者』は「大都市」ほど高い。
総じて都市規模が小さくなるにつれて、認知率が低下する。



(4) 現在の通院の有無別

現在の通院有無別では、「はい（通院者）」が、「いいえ（非通院者）」に比べ、『用語＋内容認知者』、『用語のみ認知者』の割合が高いが、大きな差とは言えない。



2. 「EBM」の内容認知

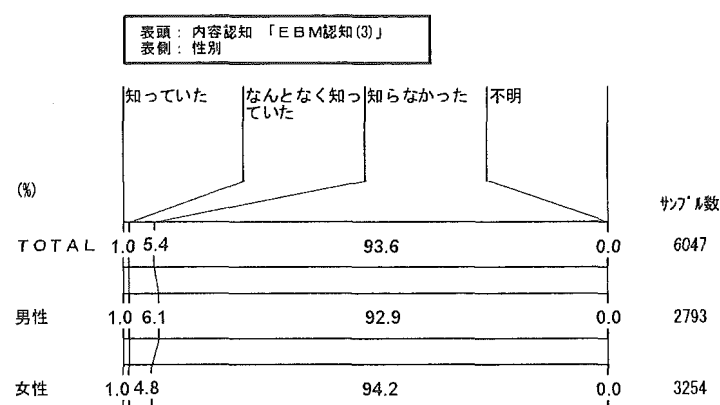
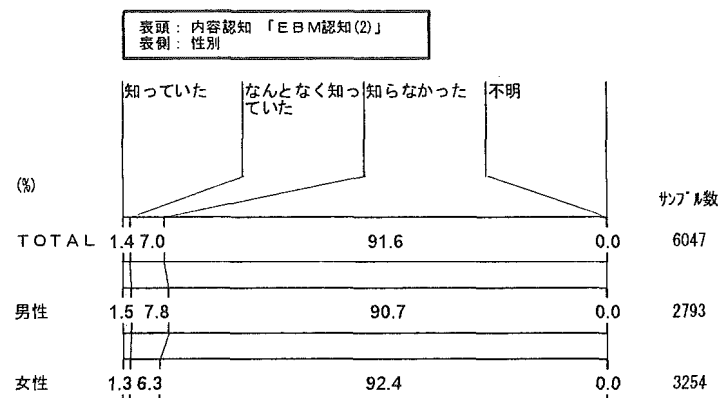
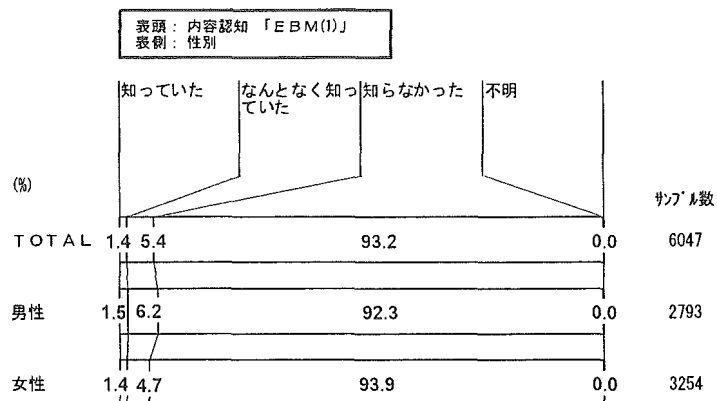
「EBM」の内容について、以下の3種の文章を提示し、内容の認知状況（「知っていた」、「なんとなく知っていた」、「知らなかった」）を調べた。

以下、報告書では提示文章をそれぞれ「EBM(1)」、「EBM(2)」、「EBM(3)」と標記する。

	提示文章
EBM(1)	「EBM（イー・ビー・エム）」とは、英語の Evidence-Based Medicine の頭文字を取った言葉です。
EBM(2)	「EBM（イー・ビー・エム）」とは、「科学的根拠に基づく医療」という意味であり、治るという証拠がある薬を処方する（医療を行う）ということです。
EBM(3)	「EBM（イー・ビー・エム）」とは、科学的根拠のない経験や慣習や権威者の意見に基づく治療法や予防法を排除し、世界の研究者が行っている科学的研究結果（臨床研究などの科学的データ）にもとづいた確かな科学的根拠（証拠）がある治療法、治療薬、予防法を患者に対して処方していくということです。

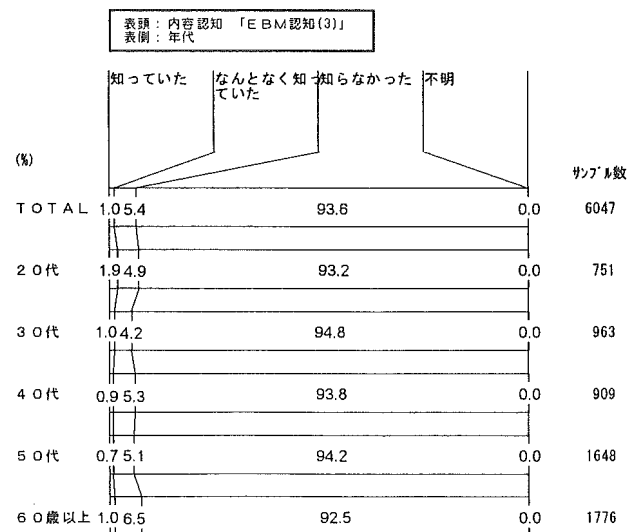
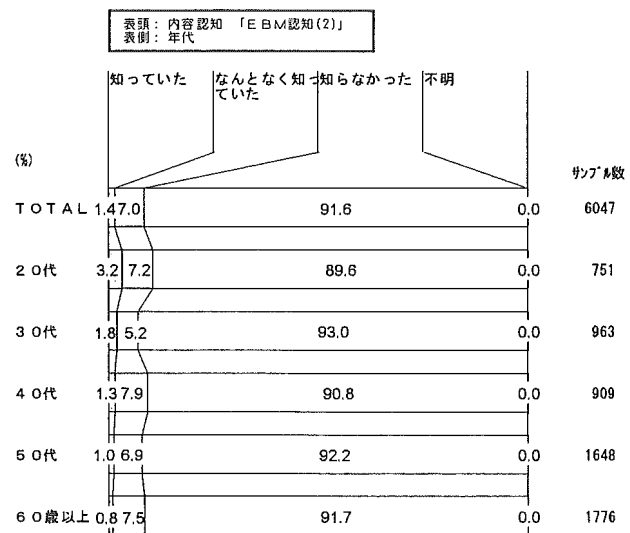
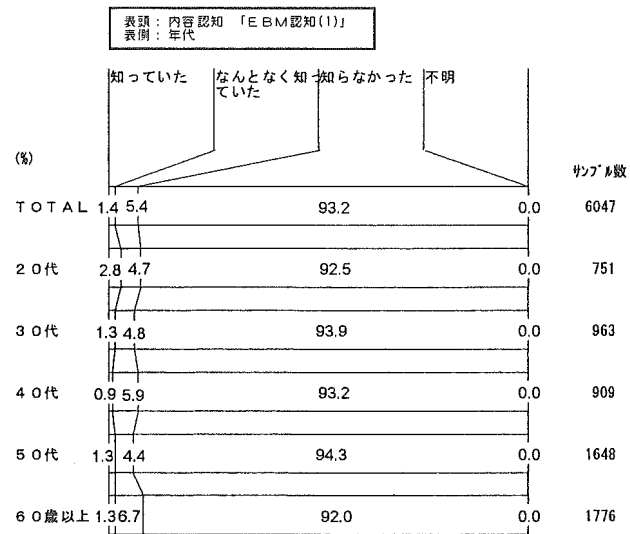
(1) 性別

男女間での認知度に顕著な差は、ない。



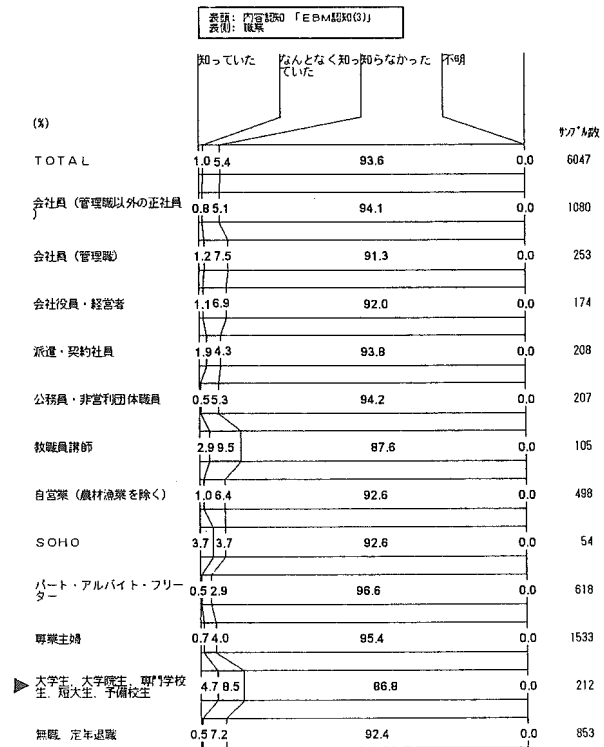
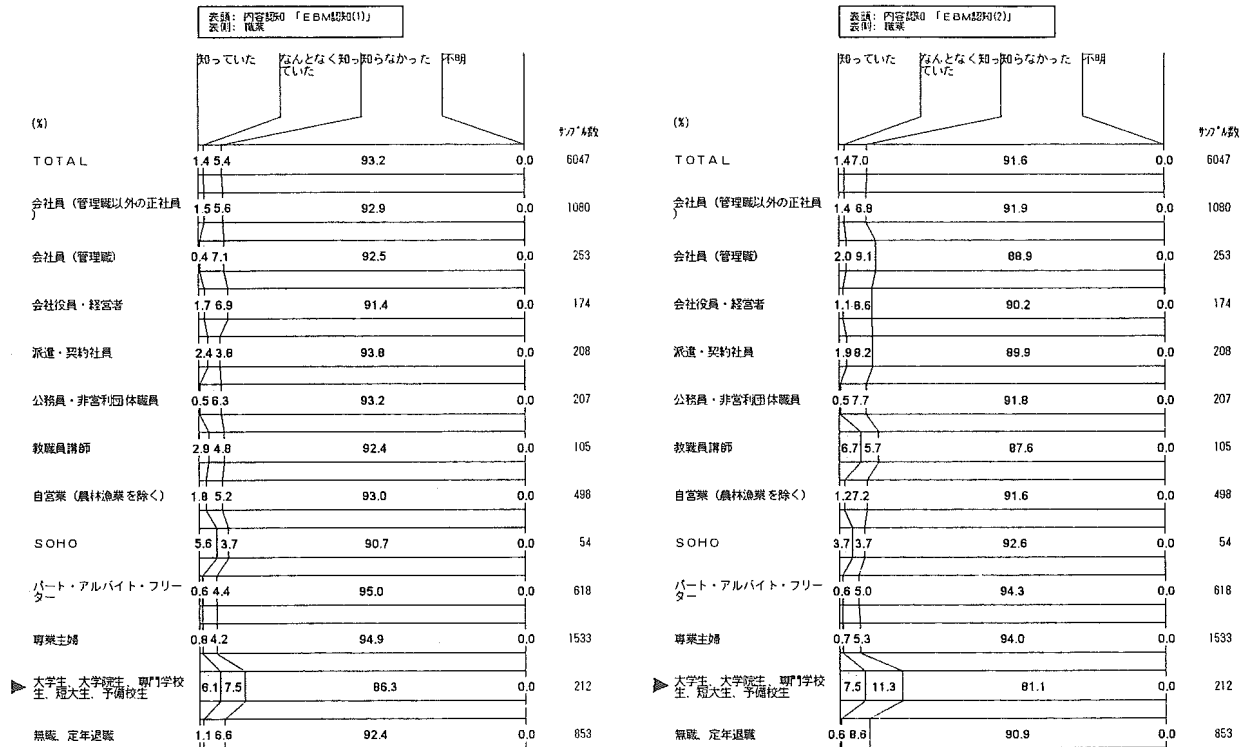
(2) 年代別

いずれの説明内容においても、20代の認知率がやや高い。



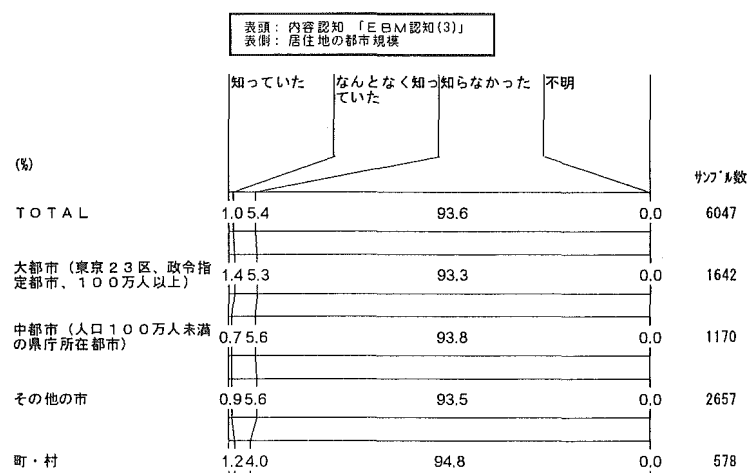
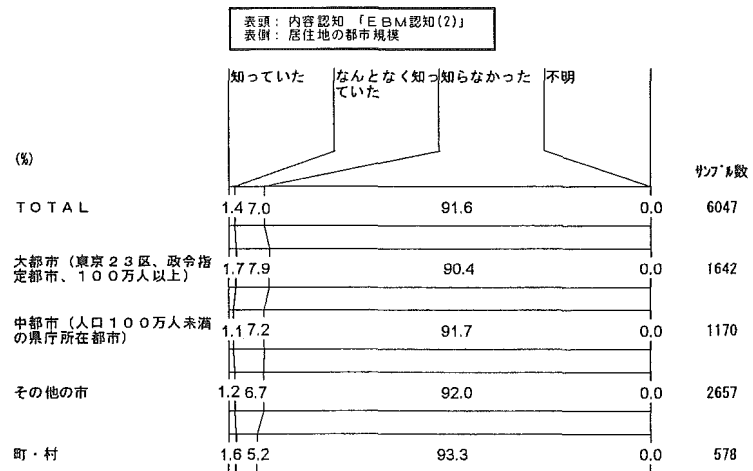
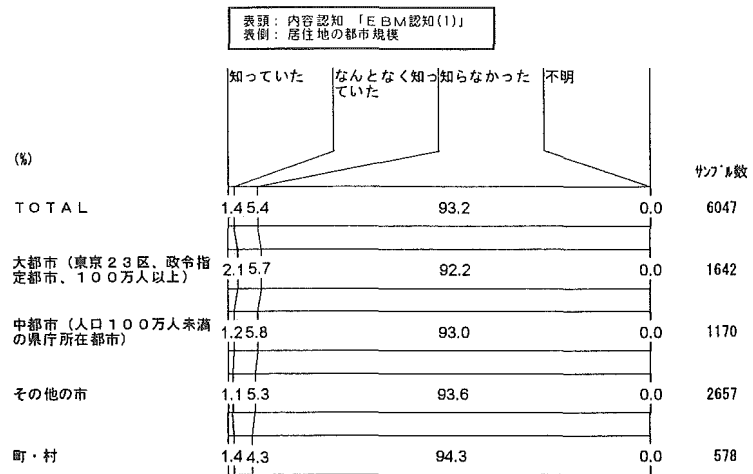
(3) 職業別

いずれの説明内容においても、学生（大学生～予備校生）の認知率が他の職業に比べやや高い。（下図のうち、サンプル数が50に満たない職業は省略した）



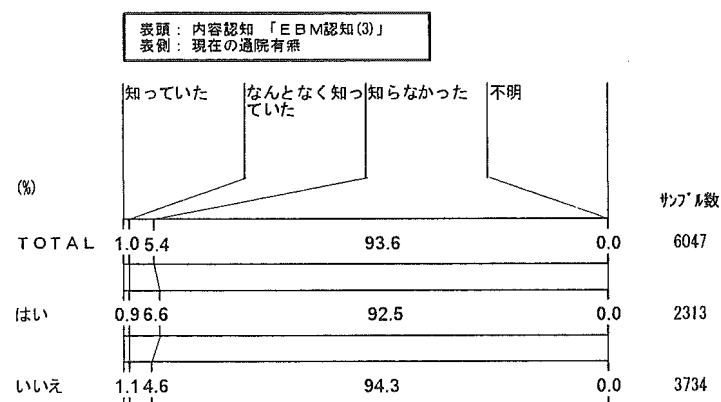
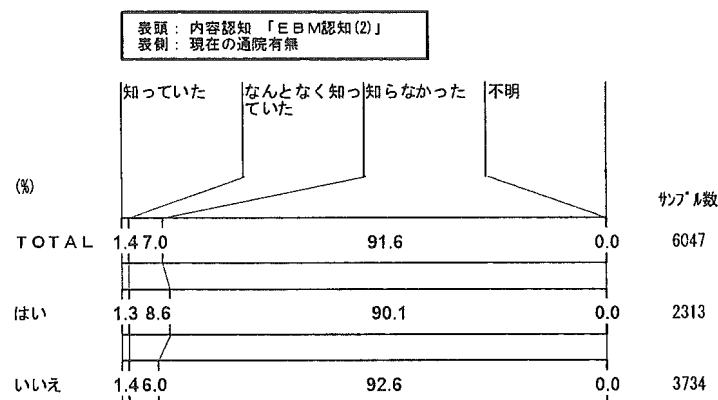
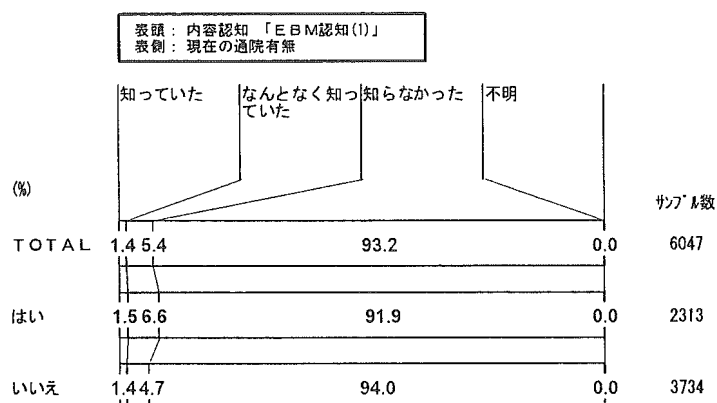
都市規模別

概ね、都市規模が大きいほど「知っていた」人の割合が高い傾向にある。



(4) 現在の通院の有無別

現在の通院有無別では、「はい（通院者）」での認知率は、いずれの説明においても「いいえ（非通院者）」での認知率を上回るが、大きな差とは言えない。

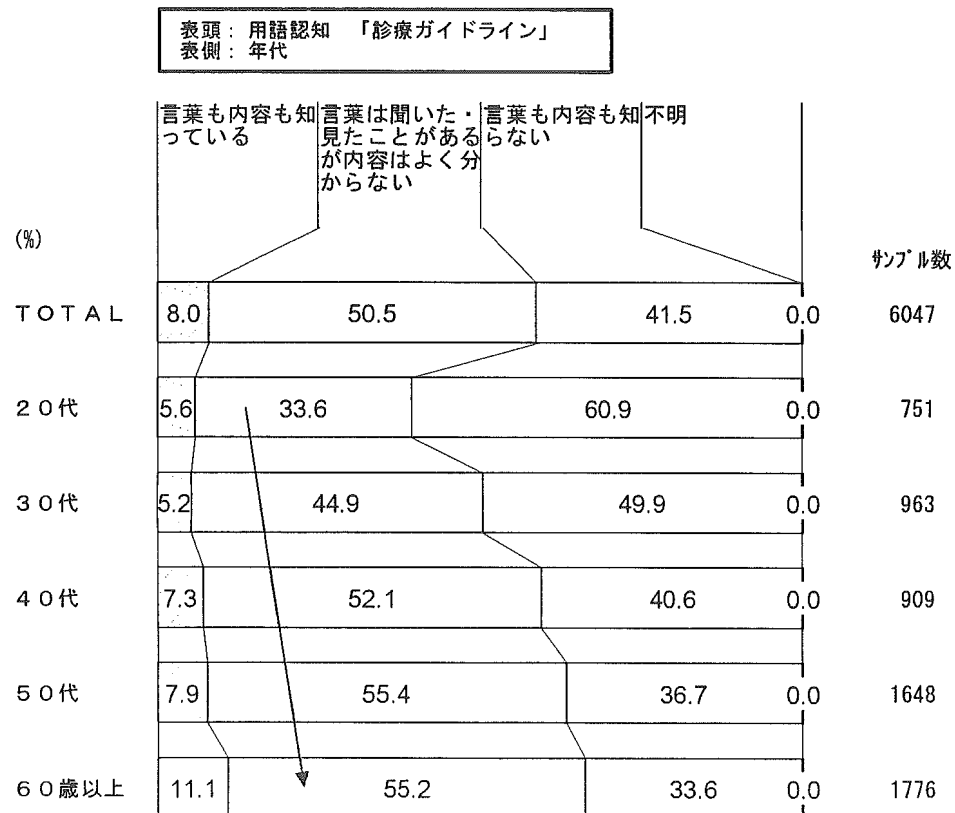
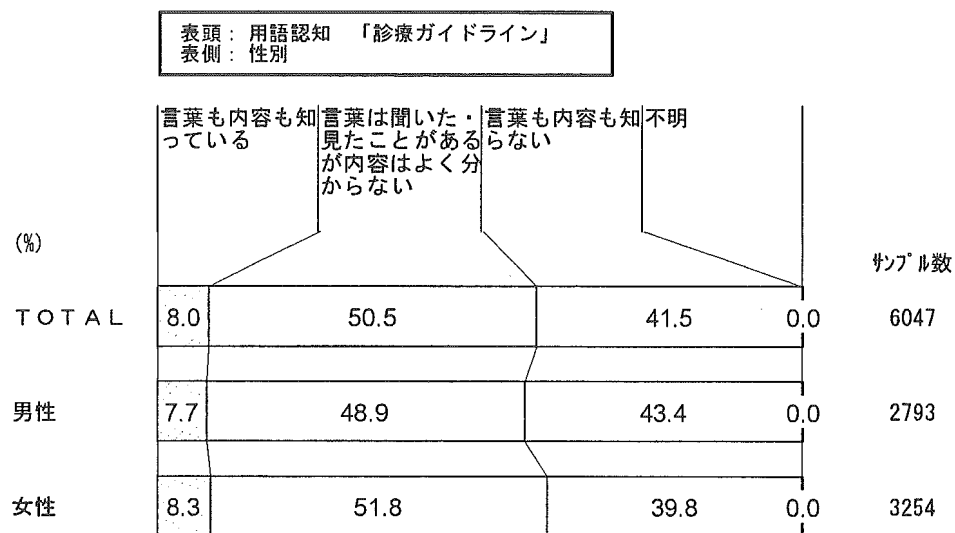


3. 「診療ガイドライン」の用語認知

(1) 性別・年齢別

男女間の比較では、女性の『用語＋内容認知者』と『用語のみ認知者』の割合は、いずれも男性を上回る。

年齢別では、年代があがるにつれて『用語＋内容認知者』と『用語のみ認知者』の割合が増える。

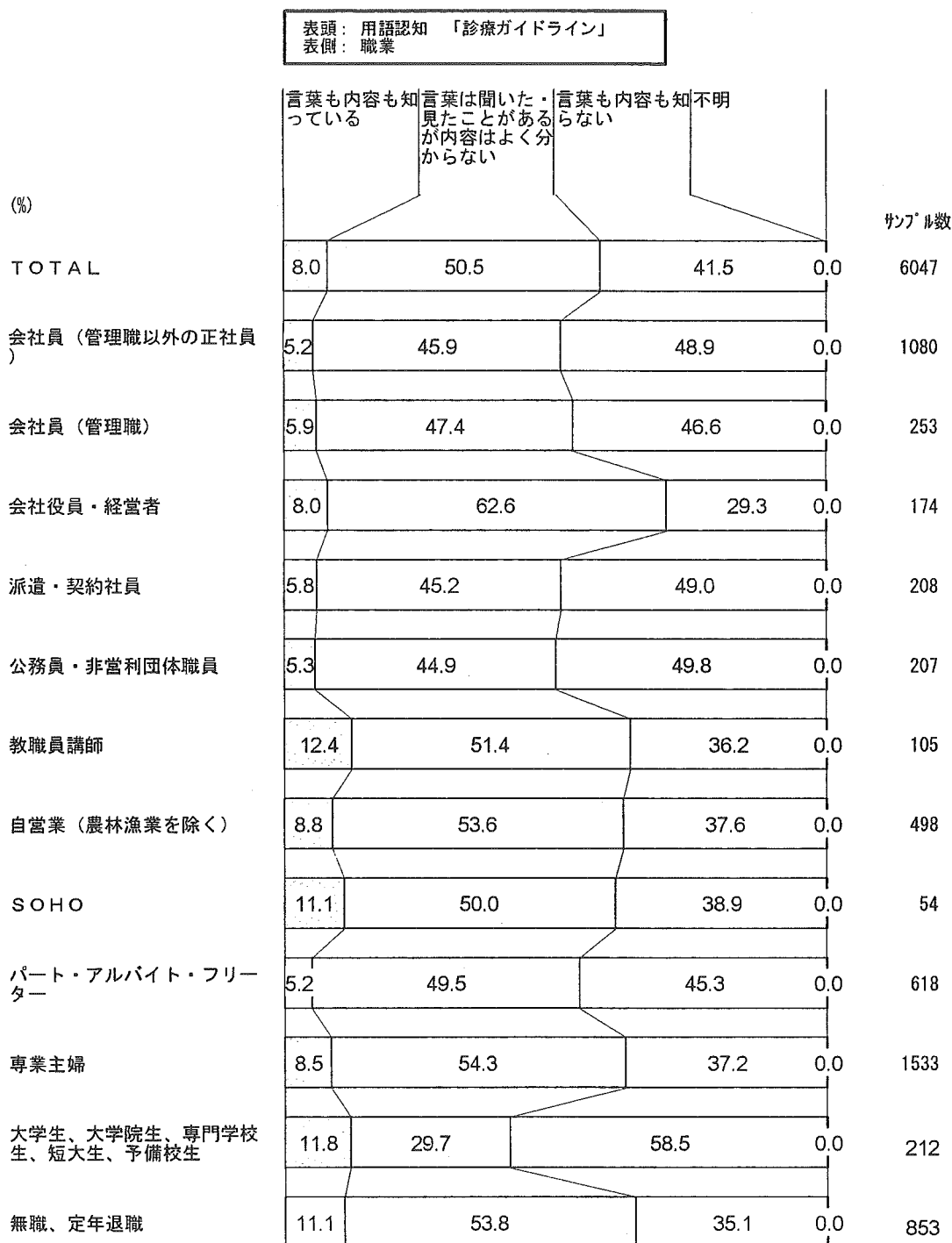


(2) 職業

『用語＋内容認知者』の割合高い職業は「教職員(12.4%)」、「学生(11.8%)」、「無職・定年退職(11.1%)」、「SOHO(11.1%)」で、いずれも10%を超えた。

『用語のみ認知者』は「会社役員・経営者」で唯一6割を上回った(62.6%)。

(下図のうち、サンプル数が50に満たない職業は省略した)



(3) 都市規模別

都市規模別では、顕著な差はない。

表頭：用語認知 「診療ガイドライン」 表側：居住地の都市規模					
(%)	言葉も内容も知っている	言葉は聞いた・見たことがあるが内容はよく分からない	言葉も内容も知らない	不明	サンプル数
TOTAL	8.0	50.5	41.5	0.0	6047
大都市（東京23区、政令指定都市、100万人以上）	8.8	49.4	41.8	0.0	1642
中都市（人口100万人未満の県庁所在都市）	7.4	52.1	40.6	0.0	1170
その他の市	7.8	50.7	41.4	0.0	2657
町・村	8.1	49.1	42.7	0.0	578

(4) 現在の通院の有無別

現在の通院有無別では、「はい（通院者）」が、「いいえ（非通院者）」に比べ、『用語＋内容認知者』と『用語のみ認知者』の割合が高い。

表頭：用語認知 「診療ガイドライン」 表側：現在の通院有無					
(%)	言葉も内容も知っている	言葉は聞いた・見たことがあるが内容はよく分からない	言葉も内容も知らない	不明	サンプル数
TOTAL	8.0	50.5	41.5	0.0	6047
はい	10.4	53.9	35.7	0.0	2313
いいえ	6.6	48.3	45.1	0.0	3734